

ピースクラブ通信

No.20

発行 社会福祉法人 ピースクラブ
 住所 〒556-0014 大阪市浪速区大国1丁目1-1
 連絡先 TEL&FAX 06-6647-2077
 Eメール peaceclub@s2dion.ne.jp

ピーコラ

1人が秩序を乱せば全体の命が危うくなる砂漠という環境で唯一の神とであったユダヤ

わびあいの里平和学習会報告

『伊江島学習会報告』

八木裕樹

オーストラリア上の宿から帰ってきてもう3年近く経

→沖縄・土の宿



つ。何度も本場土の宿へ行こうと思うが、つとに行けずじまい。このまま行けないのかなあと思っていたら、平和学習会の話が。でもはじめは少人数という事。これまた今回も行けずじまいかなあつと半ば諦めてたら、なんと話がかわりグループで行くことに!

長ーいこと待った土の宿。張りきって旅行会社を探し、安く行くように手配をする。

久しぶりの沖縄に心が弾む。空港に到着してから大渋滞の中、カーナビ頼りにホテルへ。ン、なんか怪しい建物がちらほらと見えてくる。まさか、こんなところにホテルが。そうピンク街の中に。みんなが嘩然とし、そして怒りがこみ上げてきた。予約時に社会福祉法人の団体でと伝えていたはずなのに。これからの先行きに少し不安を感じさせられる。

その思いが的中したかのように、翌朝、台風かと間違えるほどの強風。本部港に向かう途中の車内で、これではフェリーは出ないとあきらめムードが漂う。が、港に着くと運航しているとのこと。だがやっぱり船は大揺れ。何人かは大揺れの犠牲者に。やつとのことフェリーは伊江島に到着。

わびあいの里で昼食をこ馳走になり、そして念願の土の宿に。初めて訪れるのに、なんか懐かしい感じ。思っていた通りの空気がそこにあった。来て本当に良かったと素直に思えた。囲炉裏を囲んでの団樂のひと時が今思い起こしても楽しませてくれる。

オーストラリアの土の宿のキャッチフレーズに「人、原点到る宿」とあるが、一

(普)

度訪れるとまた帰りがたくな
る、本当にそんな思いにさ
せてくる人のぬくもりがあつ
た。建物は決して今風のバリ
アフリーではないが要所要
所配慮が行き届いているよ
うに思う。誰もが自然とひと
つになれる、土の宿の歴史が
そうさせるのだろうか。オー
ナーがいなくなるとどうな
るのか？ただの安宿に変わる
のか？先のこととはわからない
が、ここに訪れた人たちの想
いが、これから訪れる人たち
へバトンタッチしていつてく
れたらなあと思う。

土の宿の話はこれぐらいに
して、本題の学習会。
いつも沖縄を訪れると感じ
る戦争という言葉。伊江島で
も約40%が今でも米軍基地
として使われている。大阪で
は関心を持たなくては戦争と
いう言葉が身近には感じられ
ない。ここピースにいても
沖縄では本当に身近に感じ
る。
「靖国神社合祀問題」「教科
書問題」何のことやらさつ
ぱりわからなかった。ついで
うか関心がなかった。そんな
ことがあつたんや、程度でな
ぜっという疑問も持たなかつ
た。ピース通信を読む人はよ
く知っていると思うのでその
内容は省かせてもらいます。
(詳しく知りたい方は資料が
あります) 僕が感じたことを
書きます。

他人事のように感じてい
ることをいいことに国は今、
戦争が出来る国へ着実に進
んでいる。平和のためにと
いいながら。(国民保護法
などの有事法制の整備、防
衛省への昇格、集団的自
衛権の行使に関する有識者
の会の発足、憲法改正の
国民投票法) この流れを
決して進めてはいけない。
頭の中ではわかったつもり
になつているけど、心の中
はそんなこと無い、戦争なん
で起らないと思つてた。で
も、実際に当事者の話や学
習会に参加して心の中から
怖さをかんじる。知らぬが仏
では済まされることが多す
ぎる。わびあいの里の謝花さ

『伊江島の感想文』

3月13日から17日まで沖縄
の伊江島に行きました。私と
岸本さんと春さんと裕君と恵
里香さんと千恵ちゃんときゆ
りさんと瓶田さんと晋作さん
と吉郎とのんくんの11人で
行きました。
1日目は沖縄本島的那覇
で一泊しました。2日目か
ら沖縄本島からフェリーに
んは「学ぶことが平和への第
一步」っていつていた。
日々暮らしの中で心の
怖さが薄らいでいくのがわ
かる。この文を書くことで、
あのと時の気持ちがよみがえ
る。一人でも多くの人に今の
国の流れが本当に恐ろしいも
のだと心から感じてほしい。
また、来年、参加します。

木村あかね

乗つて伊江島に向かいまし
た。私は伊江島は初めてでし
た。宿泊は木村浩子さんの
所の土の宿でした。伊
江島で平和学習会がありま
した。14日の晩と15日の朝に
ありました。戦争についての
話をしました。
こういう平和学習会は
私が学生の時から久しぶり
でした。沖縄であつた戦争
の話は学生の時もあまり聞い
たことはないと思います。沖
縄にもアメリカの空軍基地
があります。私も沖縄のアメ
リカの空軍基地のある場所
を見たことがあります。沖縄
については沖縄はその昔アメ
リカの領土だったという話
を聞いたことがあります。今
は日本に返還されました。沖
縄では伊江島や沖縄本島そし



← ちゆら海水族館

てそのほかの沖繩の地域あちこちで行われていると思えます。またピースクラブから行くことはあると思えます。

それから平和学習会が終りました。私たちは土の宿に戻って近くの海を散歩しました。海は太陽がまぶしくて暖かくてビーチで水着でパ

レーボールしてた人もいました。でも泳ぐにはやっぱり海の塩水に足をつける程度で寒いなと思えました。私は伊江

島はけっこう寒かったなと思っていました。そして13日14日15日と過ぎて16日伊江島からまたフェリーに乗って沖繩本島に戻ってきました。

私たちはフェリーを下りて水族館に行くグループとビール工場に行くグループに分かれました。それぞれ皆行きたいところに行きました。私は水族館に行きま

した。ビール工場に行った人たちは宜野湾の宿泊先で待ち合わせをしました。水族館を充分愉しんで私たちは宜野湾の宿泊先にむかいました。水族館はまあまあ楽しかったです。宜野湾で一泊しました。そして次の日私たちは大阪に帰ります。

『沖繩・伊江島 学習会に参加して』

八木恵里香

ついに念願の伊江島へ行くー！

オーストラリア土の宿で働いていた頃から伊江島の土の宿へ行ってみたいなあ・・・と思いつながらも行けずじまいだった私にとっ

て、すごくうれい話でした。学習会参加が目的のはずが、半ば旅行気分。南国の青い空と青い海、降り注ぐ太

伊江島の土の宿の木村浩子さんが伊江島から宜野湾までお見送りに来てくれました。高速バスに乗って那覇空港にむかいました。そこから飛行機に乗って大阪へ帰りました。

陽・・・まだ寒い大阪から夏の沖繩を想像しながら、水着に半そでに・・・ワクワク、ウキウキ！！

出発当日、大阪は冷たい雨でした。那覇空港へ到着して外へ

出ると、ムーンと湿り気のある生ぬるい空気。街路樹のガジユマル。沖繩に着いたー！！

そしてレンタカー会社で待たされる待たされる。到着早々、沖繩タイムを実感。

車社会の沖繩、しかも金曜の夜、道路は大渋滞で進まない。ホテルに到着したのは夜8時を回っていました。近くの沖繩郷土料理のお店で夕食を楽しみ、ホテルへ帰り就寝。

翌朝、伊江島へ渡るために本部港を目指しました。お天気はあいにくで、波はバサーン、海は大荒れ。「フェリー出ないんちゃうか？今晩は本部で待機やな。」諦め半分、受付に行ってみると

出港するとの事。船はもちろん揺れる揺れる。数名は真っ青な状態で、長い30分を経て伊江島到着。「寒ー！ー！ー！！」

風がビュンビュン。夏スタイルの私たちには寒すぎて、みんなかばんの奥底にしまったジャンパーを取り出さずにはおれない寒さ。こんなはずじゃあ・・・。「大阪より寒いんちゃう？」とか言いながら、わびあいの里へ送迎してもらいカレーライスをよばれました。

そしてお隣の土の宿へ！イメーシ通りのゆつたりとした空気の流れる落ち着いた宿。玄関をはいると囲炉裏の周りで数名が暖をとっていました。沖繩ではありえない光景のようだけど、今日のような寒い日には有り難い囲炉裏。みんなで囲んで話も弾みます。カメさんは囲炉裏の火を起すのが気に入ったみたいで、やたらめったら吹いて部屋中真っ白。ものすごく

楽しそうでした。

学習会は2日間びつちり。朝から晩まで。沖繩戦、靖国神社問題、教科書問題・・・知らない事だらけで、眠たくなる場面もしばしばありましたが、えっ？と真剣にならざるを得ない内容もたくさんありました。

その一つである「靖国神社問題」においては、戦争に参加した軍人以外にも、小さな子供や母親までもが戦闘参加者として国のために命をささげた「殉国者」として祀られている。戦場での日本軍の住民に対しての非人道的な行動をすべて隠して殉国美談として話を塗り替えようとしている。その背景には「援護法」という嫌らしい制度があるで口止め料のように存在し、住民の真実の声を封鎖している。

教科書問題にしても、国の都合のいいように真実が塗り替えられてしまう。

でも、憤りを感じながらも、何かができるわけではないけど、こういう事実を知ることができ、現実運動をしていく人の生の話を聞くことができ、戦争の悲しさ、無意味さを改めて感じました。

こうやって真剣に平和について考え、話し合う時間を少しでも持つことって大切で、とっても大きな力になるなと思います。

わびあいの里の理事である謝花さんは「学ぶことが平和への第一歩」とおっしゃっていました。それから、ピースクラブのメンバーが毎年学習会に参加していることに対して、すごく敬意と感謝を示されていて、こちらが恐縮するほどでした。

学習会に参加できたことに感謝です。

学習会

きれいな公民館での学習会。

初日の天気は曇り。風が強く寒かった。

夕方16時から始まり、21時30分まで。

途中のご飯休憩ではお弁当をもらって食べた。

その後の地元の小学生による「名護親方と6つの訓え」の演劇。

よく通るいい声で大きく見えた。一休さんみたいに笑えるところで無茶な要求をかわしたりして面白かった。

違うけど、ちよつと、お母さんが昔おじいちゃんに言う言ってたわうって話したりする場面が頭をよぎったりした。

に感謝です。

藤本千恵

次の日は朝から昼まで。映画を見て全体集会。内容は：難しくわからなかったです。戦争の話は今まで原爆のことや戦後の話を聞くことのほうが多く、沖繩戦争の話は始めての気がする。

外はいい天気。もらったお弁当を土の宿のお庭で食べました。

ヌチドゥタカラの家（反戦資料館）には学習会が終了した次の日に

行った。

中に入るとなんだか胸苦しい？どういつていいかわからない感じになった。でも奥の一角は怖かった。みてすぐに目をそらせてしまった。まじまじと見れなかった。外に出たらばかばかといひ天気。ほっとした。



へいわがくしゅうかいじょう
▲平和学習会会場

『阿波根さんの思い出』

岸本 隆

沖繩・伊江島での6年間、わびあいの里に隣接する土の宿で過ごした岸本にとってそこでの日々は強い印象で残っている。毎年行われるわびあいの里平和学習会にお誘いを受け、大阪からピースの仲間たちと出席するようにになって、今年で何回目だろう……。今ではもう出舎の実家に帰省するよ



→ 浜辺にて

うな感覚に近いものがある。

わびあいの里の庭に立つと、かつて庭石にすわって

阿波根さんの話してくれたことが懐かしくよみがえってくる。その言葉はやさしく、お

だやかで、分かりやすかった。そして、その態度は、僕

にだけではなく、彼の周りをウロウロしているにわと

りに対しても同じ、足元にころがっている小石や、そここ

こに生えている雑草にも同じであった。「サア、おいでお

いで、こっち、こっち」と声をかけ歩き出すとにわとりた

ちが彼のうしろを追ってついていく、「サア、サア」ととり小屋までつれていくのをよく見た。庭の草をぬく時にもな

がら、小さな石をひろいながら、一つ一つと向き合い、全霊で接していた。そして「この草や石だってちゃんと役割があつてここにあるんだよ」、だからむやみにぬかずに、その役割を認めてあげよう、と話していた。

こういう世界をアニメズムというのだろうか。今この時を、この場を共に生きているものに対する共有感の確認というかんじであつた。

歩くところ、木があれば木にさわってかたりかけ、木陰や風にお礼をし、落ちていた木片を拾い家にもつてかえり、次の役割をさがす、そんなもので彼の家は

「わたしたちは」、「わしらは」と周りの者たちをすごく大切にす

る人でもあつた。その思想が今もしつかり里に根付き、流れているからわびあいの里は生きてる



▲わびあいの里反戦資料館の前で
(中央・謝花悦子さん)

みやこじま 宮古島にて

『行ってきました、みやこじま 宮古島。』

森本 さゆり

今回は少人数の三人旅で高島の西銘さんと合流して、いざ宮古島へ。

細かいことはやめて、私
が感動したことを書きます。
第一に、西銘さんとあつ
て心が落ち着いたみたいで、
だんだん元気をもらった。
ほんまにものすごい人やな
あと思いました。
第二に、朝子さんの紹介

で酵素のマッサージ風呂とい
う物を体験しました。初めは
なんでも体験せなと思いつつ、
半信半疑やっただんですが、
終わってみると、汗がたっぶ
り出て悪い物もみんなでたよ
うでした。そして、体が動き
やすかったです。皆さんも、

是非体験してみてください。
なんか今回は私的の旅でし
た。体も心も元気になってか
えって参りました。さあこれ
から、自分の間はがんばれま
すよ。

『みんなの家』を建てます

グループホームということ
で宮古島に需要があると思っ
ていましたが、亀浜さん（議員
さん）が亀川課長さんに打
診したらないそうです。要す
るに家族（一族）がめんどう
がみるのが当たり前というの
とすでにある施設がグループ
ホームに移行するので、人の
とりあいになることとし
て、人のとりあいをするなん
せんし、どちらかというとい

由な取り組みの方が自分たち
にはあいます。
開かれた「みんなの家」。
そこは、でも、24時間。弘
子さんが居るのでそれはもう
そうしかなりません。大阪
の人間を連れて来て、自分ら
だけでするというのではあり
ませんし、宮古の人と一緒に
するのですが、一緒に苦労し
て、一緒に夢の語る人が集ま
れば、全世界から来てくれ
ても良いですよ。

宮古島は、今や世界に発
信しています。石の庭や、太
陽光でゴミを処理する工場
やその土地からのエネルギー
は、癒しと平和のエネルギー
です。エコ住宅を建て、岩
盤浴を作り、宮古に解放し
ていく。私達も「共生」（障
碍者だけでなく、全ての人
との共生）をテーマに発信
していきます。
朝子さんと岸本さんがと
りあえずのスタッフ。ふたり

大西洋子

とも「土の宿（伊江島）」で
培ったEcoをを活かし、
村の中にどーんと定着して
くれるでしょう。酵素づくり
とかハーブ園とか鶏を飼うと
か、今朝子さんが一人で行
てくれていることを、岸本さ
んと二人で、いいえ弘子と三
人で広げていってくれます。
私達も小さくても、思い
のつまったものを建てて「身
銭をきって、夢を育てていこ

う」と思っています。計画の
内容は、次のとおりです。
1. 障害者と健常者との
共生の場づくり
2. 大阪と宮古を結ぶ商品
開発（村おこし）
3. 健康づくり、エコ活動—
エコ住宅の実現
4. 遊びと喜びの拠点
に！

これからのスケジュール

- 6月13日（土）16:00
スイッチ会議（グループホーム交流会）
メグリにて
- 6月27日（土）14:00
あほまつり（上月洋平主催）
¥2,000（飲食別）
「S」+介助者 ¥3,000
- 7月12日（日）12:00
鈴虫バンド・ライブと食事
¥1,000（飲み物別）